

令和3年度図書館事業評価

図書館計画に基づき、事業評価を、次の評価指標により評価を実施した。

評価指標

- A：事業計画の目標に対し概ね達成している
- B：事業計画の目標に対し一部達成している
- C：事業計画の目標に対し課題がある

評価結果一覧

評価項目	一次評価 (図書館)	二次評価 (図書館協議会)
基本方針1 資料の収集と保存の充実	A	A
基本方針2 すべての市民に活用されるために	A	A
基本方針3 西東京市の文化・歴史を次世代に継承する	A	A
基本方針4 未来を担う子どもの読書活動の支援	B	A
基本方針5 地域、行政と連携した図書館サービスの向上	A	A
基本方針6 効率的・効果的な運営体制の構築	B	A

基本方針 1 資料の収集と保存の充実	
令和3年度目標	
① 利用の多い児童書について複本購入や資料の入替えを継続して進めます。 ・ 中央図書館休館中（令和3年4月1日～令和4年3月31日）も所蔵資料を有効に活用できるように調整します。 ② 保存館の調整を継続して行い、資料の移動を進めます。 ・ 令和4年度中央図書館の開館に向け、資料の刷新を行います。 ・ 中央図書館休館中も利用の多い所蔵資料、利用が見込まれる所蔵資料については、利用者が手に取れるように工夫します。	
令和3年度取組成果	
① 令和3年度中も児童書を活用するために、中央に所蔵している一部の資料や令和3年度に購入した中央所蔵の資料などを、この間一時的に谷戸・柳沢・ひばりが丘図書館に所蔵を変更し、有効に活用できるようにしました。 ② 市内に複数ある一般書全集の整理並びに移動を行い、汚破損のある全集や利用頻度の高い全集は買い替えました。 中央休館中に下記資料を市内図書館に移動し、利用者への提供を継続しました。 ・ 雑誌＝各館へ割り振り ・ 新刊本や中央所蔵で貸し出されている資料＝柳沢図書館に移動 ・ CD＝谷戸図書館、柳沢図書館、ひばりが丘図書館に移動 ・ 英語多読資料＝ひばりが丘図書館に移動 ・ コーナー（法律情報、健康医療情報、青年期）＝ひばりが丘図書館に移動 中央図書館再開時に開設する新たな文庫架の一面を「時代小説コーナー」とし、利用の多い作家の資料を集めて、利用者の目に留まりやすく、手に取りやすくするために工夫しました。	
基本方針1の総合自己評価・今後の課題改善点	
① 中央図書館所蔵の児童資料の買替等確認作業は、休館中は外部倉庫に保管していたため進められなかったもので、次年度以降積極的に行います。 ② 市内図書館に移動した資料は、中央休館中も利用に資することができ、特に雑誌はタイムリーに閲覧と貸し出しを継続することができました。 中央図書館の文庫架は、以前は収容量に課題がある書架だったが、一般的な両面書架に新調したことにより、資料が探しやすくなりました。また、収容能力が増えたことで、新たに「時代小説コーナー」を設け、一覧できるよう配架しました。 今後は、収容能力が増えた書架を十分に活かすことが課題です。	A
図書館協議会委員による二次評価	
中央館休館中、利用の多い児童書を地域図書館に移動し、有効に活用したことはよかったと思います。複本購入や資料の入替えは、より一層進めてください。児童書に限らず、雑誌、新刊本、CDなど各種資料も地域図書館に移動し、市民への提供を継続されたことを評価します。中央館開館後は、保存と利用のバランスの取れた活動をさらに進めていくことを期待します。	A

基本方針 2 すべての市民に活用されるために
令和3年度目標
① 多文化理解のためのサービスは、関係部署や地域で活動する団体等と連携しながら、利用の促進を図ります。 ② 資料等を活用した講演会・講座を実施します。 ・情報リテラシー向上に関連した講演会を実施します。 ③ ニーズに即した最新情報を提供するため、シニア支援コーナーの書架構成を再検討します。 ・シニア支援コーナーの分類を再構築することで、現在の利用者ニーズに即した内容にし、かつ手に取りやすい書架構成に変更します。
令和3年度取組成果
① 多言語おはなし会「いろいろなことばでたのしむおはなし会」を実施しました。 英語、中国語、韓国語を母語とする人による読み聞かせ 8回実施（親子22組60人参加） 多文化理解のための企画展示を実施しました。 1. 世界とつながる図書の展示（12月保谷駅前図書館） 2. 英語絵本の展示（1月谷戸図書館） 3. アイヌ文化を知ろう（3月柳沢図書館） 多文化講座を実施しました。 1. にほんご多読ワークショップ（オンライン 10人参加） 2. イランカラプテ～西東京市でアイヌ文化を知る講座～（20人参加） 3. 絵本で楽しむ英語の世界（オンライン 15人参加） 成果 ・おはなし会を定期的を開催することで、多言語多文化に触れ合う機会を提供できました。 ・講座と並行で実施したアイヌ文化の企画展示では、講座と連動した形となったため昨年に比べて関心を持ってもらうことができました。また講座後のアンケートで受講者から「気軽に親子でアイヌ文化に触れられて、楽しめました」「アイヌ文化への理解が深まりました」等の感想をいただき、好評でした。 ・日本語多読ワークショップでは、参加された日本語学習支援者の具体事例を聞くことができ、図書館の今後の取組みに繋がると感じました。 ・絵本で楽しむ英語の世界は、オンラインの利点を活かしたことにより、参加者が自宅で気軽に講座に参加できたと、好評でした。 ② 講演会をオンラインで実施しました。 ・演題：「データを正しく読むためのデータリテラシー入門」 ・講師：荻原和樹氏（スマートニュースメディア研究所 シニアアソシエイト） ・内容：実際の広告や事例をもとに、データを見るときに気を付けること、間違いやすいポイントなどを解説 ・日時：令和3年10月16日（土）14：00～16：00 ・参加者：34人 新型コロナウイルス感染症をめぐる報道などさまざまな情報が溢れている中で、データ

を読む際の注意点を学ぶことで、市民が虚偽や歪曲・誤解を生むデータから不安や怒りを受け取る機会を減らし、健康な心で判断や行動ができるようになることを支援することを目的として講演会を企画しました。

このテーマをこのタイミングで、オンラインで実施することが、コロナ禍における社会教育施設としての一つの責任だと捉え、「新型コロナウイルス国内感染の状況」について、視覚的にわかりやすく伝えられていた方に講演を依頼し実現しました。

成果

- ・匿名で質問を投稿できる WEB サービス「Slido」を活用したことで、講演会前・途中にも質問を投稿することができ、非常に多くの質疑応答がなされ、オンラインの良さが生きた講演会となりました。
- ・事後のアンケートでは、同様のテーマにおける講習・講演会の継続を希望する声が寄せられました。
- ・データリテラシーに関する所蔵資料リストをリアルタイムで図書館 HP に掲載することができました。
- ・講演内容をビデオ録画し、後日図書館員の研修に活用しました。

- ③ 令和 2 年度に高齢者支援課の協力のもと、高齢者支援課が所管している市内のシニアボランティア（ささえあい訪問協力員、メール見守り協力員、住民主体訪問サービス活動協力員、認知症サポーター・ボランティア、はつらつサロン・ボランティア、高齢者施設等におけるボランティア）に向けてアンケートを実施しました。日常生活における興味・関心や情報収集の方法、図書館の利用頻度、図書館サービスへの要望等について質問し、回答をまとめました。行政情報（保険や年金等の制度について）や地域のイベント情報、シルバー人材センターの情報等に対する関心が高かったため、それらをメインにした書架を構成し、趣味等の資料は個人の嗜好に幅がありすぎることがわかり、収集対象から外すことにしました。令和 3 年度は、その結果を踏まえて以下のようにシニア支援コーナーのリニューアルを行いました。

- ・コーナー名を「シニア支援コーナー」から「シニアコーナー」に変更しました。
- ・既存の分類、蔵書構成の見直し、書架の整理、レイアウト変更しました。
- ・コーナーの PR のためにしおりを作成し、図書館内だけでなく高齢者支援課にも配布しました。

基本方針 2 の総合自己評価・今後の課題改善点

- ① 多文化サービスでは、おはなし会、講座を中心に幅広い世代に参加してもらうことができました。
展示についても関連した講座開催期間に設定し、目につく場所にすることで、関心を持ってもらうことができました。
今後は、日本語を母語としない人に向けた取組について検討します。
- ② レファレンスサービスでは、成人サービス担当と共同でオンラインでの講演会を試み、幅広い世代に参加してもらうことができました。アンケート調査の満足度も高く継続を希望する声もありました。
今後は児童を対象としたテーマも検討し、講座・講演会を継続して行います。
- ③ 「シニアコーナー」には、地域情報のパンフレットやチラシ、行政情報を多く置き、以前よりも地域に根差した書架づくりができました。
今後は利用者の反応や効果を分析し、必要に応じて対応を図っていきます。
さらに 5～10 年を目安にした定期的な更新を継続させます。

A

図書館協議会委員による二次評価	
多文化理解を目的とした事業（多言語お話し会や企画展示や講座など）を積極的に実施したことを評価します。特に「アイヌ文化」の企画は、日本の内なる多文化という視点から意義があったと思います。対面、展示、オンラインと様々な実施形態の採用は、利用者にとってよい試みだったと思います。 コロナ禍のなか情報化社会を前提にした「データーリテラシー」の講演会を実施したことは意欲的な取組だったと思います。 アンケート調査に基づき、シニアコーナーの分類や蔵書構成の見直しを行ったこと、図書とともにパンフレットやチラシなどの行政情報を配架したことを評価します。パンフレット等の配架は、シニアコーナーに限らず、教育、福祉、子育て、ジェンダーなどでも展開できると考えます。	A

基本方針 3 西東京市の文化・歴史を次世代に継承する	
令和3年度目標	
① 西東京市の地図資料について、情報を整理し発信します。 ・ 住宅地図や地形図などの地図資料を整理し、図書館ホームページに掲載します。 ② Web公開した昔話の紙芝居や地図や古文書、市史等歴史的資料の利活用の促進に取り組みます。 ・ 耐震補強等改修工事に伴い、地域・行政資料を外部倉庫に保管することから、資料の一部を芝久保図書館に移動させ利用者サービスを継続させます。また「西東京市図書館／西東京市デジタルアーカイブ」としてWeb公開した資料については、その活用を前提として取り組みます	
令和3年度取組成果	
① 住宅地図や1枚ものの地形図、西東京市発行のハザードマップ等の閲覧や問い合わせが多い地図資料の所蔵状況を一覧にまとめ、図書館ホームページに掲載しました。 ② 収容可能なスペースに合わせて精査した約4,000冊の地域・行政資料を芝久保図書館に移動し、現物を用いたレファレンスサービスを継続することができました。 また、同時に「西東京市図書館／西東京市デジタルアーカイブ」の積極的なご案内を行い、自治体市や市史編さん資料の古文書を案内することで、ご自宅での活用促進に努めました。	
基本方針3の総合自己評価・今後の課題改善点	
① 利用者からの問い合わせの多い地図資料の所蔵状況を一覧でわかりやすくしたこと で、利便性の向上につながりました。今後は、未整理状態の地図資料の整理を進め、 一層の充実を図ります。 ② 芝久保図書館に移動した約4,000冊の地域・行政資料は、西東京市に関する資料を中 心に選定したため、周辺自治体など広域を対象とした資料が少なく、現物を用いたサ ービスにおいて利用者には不便をかけました。 来館が難しい方に対して、「西東京市図書館／西東京市デジタルアーカイブ」を利用 した資料提供につなげる事例があったことは、Web公開の効果だと考えます。 「西東京市図書館／西東京市デジタルアーカイブ」の年間総アクセス数は、142,011 回でした。(令和2年度は、103,463回) 今後は、新しくなった地域・行政資料室のわかりやすく手に取りやすい配架に努め、 来館者とWeb閲覧者の両方にとって有意義な資料提供の充実を図ります。	A
図書館協議会委員による二次評価	
ホームページに地図の所蔵状況を掲載したことは、今後の利用に繋がるよい取り組みだと思 います。ただし、ホームページの階層が深いため、利用しやすさの工夫が必要だと思います。 中央館休館中でも地域・行政資料を利用できる体制を整備し、利用者に提供できたことはよ かったことと評価します。「西東京市デジタルアーカイブ」のアクセス数の増加は喜ばしいこと ですが、今後もコンテンツのさらなる充実が必要です。また、国土地理院など他の機関や市民 グループとの連携やリンクなども有効だと思います。	A

基本方針 4 未来を担う子どもの読書活動の支援

令和3年度目標

- ① 図書館利用のきっかけづくりとなる、バックヤードを体験できるイベントを実施します。
- ② YA世代を対象とした読書会等、読書の楽しみを他者と共有できるイベントを開催します。
 - ・YA世代(子どもと大人の狭間の世代。西東京市図書館では13歳から18歳)を対象とした、本を選ぶ楽しみを共有できるワークショップ「プレゼントブック」を企画・開催します。
- ③ 令和2年度に策定した「第4期西東京市子ども読書活動推進計画」の周知のため、講演会等を実施します。

令和3年度取組成果

- ① 「バックヤードツアー」を谷戸・柳沢図書館で8月に実施し、谷戸図書館25名、柳沢図書館8名の参加がありました。
- ② YA世代を対象に、「本を楽しむ！本で楽しむ！YAワークショップ『プレゼントブック～だれかに本を贈るなら～』」を実施しました。
 - ・日時：令和3年12月11日午後2時～4時 会場：谷戸図書館読書会室
 - ・講師：市内学校司書渡邊有子氏
 - ・参加者：5名

会場に用意した本（その場で手に取って楽しめる写真集・ビジュアルブック・詩集・YAや大人向けの絵本・英語の絵本等約300冊）の中から、参加者それぞれが「だれか」を想定して贈りたい本を選びました。選んだ本にラッピング（リボンと手書きのメッセージカードを付ける）を行い、参加者同士で共有しました。

完成後、ラッピングした本にカードを添えた様子を撮影し、参加者にプレゼントしました。

後日、参加者が選んだ本と作ったカード、写真を各館で巡回展示し、利用者にイベントを知ってもらったり、本を手にとったりする機会としました。

参加者の感想

 - ・本からわたす人を連想するのが楽しかった。
 - ・いろいろな人の作品を見て、それぞれの個性が感じられて楽しかったです。
 - ・本を通じて新たな出会いがあったり、世界が広がったりして、とてもおもしろかったです！
 - ・他の学校の、他の学年の人としりあえたこと
 - ・知らなかった詩人さん、詩を知れた。
- ③ コロナ禍のため、予定していたスペシャルおはなし会は中止しました。

講演会は当初の予定を延期し、芝久保公民館にて令和4年3月26日（土）に実施しました。市村久子氏（絵本研究家）を講師に迎え、「子どもの成長と絵本」というテーマでご講演いただき、16名の参加がありました。

パネル展「目で見える西東京市子ども読書活動推進計画」は、休館中の中央図書館を除く市内全館を巡回して行い、広くPR出来ました。

基本方針４の総合自己評価・今後の課題改善点	
① 「バックヤードツアー」は、普段は見られない図書館の裏側を見学できる機会となり、参加者に行ったアンケートでは満足度の高い結果でした。来年度も継続実施を予定しています。 ② Y A世代を対象としたワークショップは、学校の行事予定などを鑑みながら日時を設定しましたが、参加人数に課題を残しました。 ③ 西東京市子ども読書活動推進計画策定記念イベントは、講演会とパネル展を実施することにより一定の周知ができました。 なお、中央図書館でのパネル展は、再開に合わせ令和４年４月に実施を予定しています。 当初、パネル展は保谷駅前公民館のみの開催として企画していました。このイベントが本計画を広く市民に周知する目的を持つことをふまえ、市内全域での巡回展示に切り替え実施しました。 次期計画策定の際には、計画周知のイベント自体が子どもの読書活動に関わる市民・団体との協働・交流を深めるチャンスと捉え、より内容を工夫します。	B
図書館協議会委員による二次評価	
バックヤードツアーは、子どもたちが普段は入れない書庫などに行けるという楽しみがあります。同時に図書館にとっても自らの活動を理解してもらうよい機会になると思います。 Y A世代を対象としたワークショップ「プレゼントブック」は大変、興味深い企画だと思いますが、企画立案の段階からY A世代の参加が望ましいと思います。また、Y Aという言葉がどれだけ該当世代に伝わっているのか検討する必要があると思います。 令和２年度に策定された「第４期西東京市子ども読書活動推進計画」をどのように市民に周知するのかは大きな課題です。そのためには子どもの読書に関心のある市民と連携・協力することが重要です。次期の策定後には市民とともに全職員が関心を持ち、取り組んで頂くことを期待します。	A

基本方針 5 地域、行政と連携した図書館サービスの向上	
令和3年度目標	
① 武蔵野大学との協力事業を推進します。 ・ 日本文学文化学科の授業「読書への誘い」への講師派遣を行います。 ② 宅配ボランティアへの研修を継続的に実施するとともに、サービス充実のため引き続きボランティアの募集を行います。 ・ 図書館ホームページでの募集を継続させます。 ・ 宅配ボランティアへの研修を継続的に実施します。	
令和3年度取組成果	
① 武蔵野大学文学部日本文学文化学科の授業「読書への誘い」に成人サービス担当職員を講師として派遣しました。 ・ 日時：令和3年12月20日（月）13：30～14：50 ・ 内容： - 前半「図書館とは何か、および西東京市図書館における図書館サービスについて」 - 後半「新型コロナウイルス感染症と図書館の取り組みについて」 ② 宅配協力員（ボランティア）は、PRにより新規で2名の応募があり、研修の実施後に活動を開始しました。令和3年度は16名の体制で宅配サービスを行いました。 前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として利用者のサインの省略や置き配等を継続して行うことで、宅配協力員と利用者の双方の感染対策を考慮した活動を維持させることができました。 また、コロナ禍のため例年実施していた懇談会は実施しませんでした。ボランティア向けにアンケートを行いフィードバックを図りました。	
基本方針5の総合自己評価・今後の課題改善点	
① 武蔵野大学での講義後に、大学生世代の読書量や情報獲得手段に関する内容、図書館にあって欲しいサービス、授業の感想等について、アンケートを実施しました。具体的な司書の業務について、「想像していたよりも多岐にわたり、書籍を扱う以外の業務について初めて知った」という意見が多くありました。同時に、そのキャリアパスについての質問・感想・相談も多く寄せられました。また、紹介したレファレンス事例やコロナ禍の図書館の状況・サービスに対して興味深く捉えたとする感想が多かったです。大学生世代の読書量や情報獲得手段に関する内容については、次年度以降の青年期コーナーの蔵書構成や、企画に活かしていきます。 ② ハンディキャップサービスでは、宅配協力員16名へのアンケートの中で、今後の活動について「もっと活動を増やせる」5人、「ちょうどよい」8人などの回答があり、宅配サービスの利用が少しずつ増えることも考慮しつつ、バランスよく宅配協力員を配置できました。宅配協力員の募集については、図書館ホームページへの掲載を継続してPRに努めます。	A

図書館協議会委員による二次評価	
コロナ禍で未実施だった武蔵野大学との授業協力が実現できたことを評価します。今後も様々な形で協力関係が進められることを期待します。 宅配サービスは大切なサービスです。今回、新しい宅配協力員の参加があったことを評価します。このサービスはボランティア、職員ともに負担が重いものと思います。ボランティア活動に配慮しながら効果的な運用を図ってください。また、応募者が連絡しやすいようにメールでの対応も検討してみてください。	A

基本方針 6 効率的・効果的な運営体制の構築	
令和3年度目標	
中央図書館・田無公民館耐震補強等改修工事中、中央図書館サービス機能をイングビルの臨時窓口を設置のほか、各館に分散し利用者サービスに供します。 令和3年4月1日から令和4年3月31日までの中央図書館休館中、臨時窓口を開設することで、中央図書館利用者への予約資料の受け渡しを中心としたサービスを継続させます。	
令和3年度取組成果	
- 令和3年4月1日から同月29日まで 柳沢図書館にて、中央図書館での受取り希望予約資料の受け渡しを実施しました。 芝久保図書館にて、中央図書館のみで購読している新聞の閲覧を実施しました。 - 令和3年5月1日から令和4年3月6日まで イングビル3階第4会議室にて、予約資料の受け渡し、予約の受付、利用登録・更新、資料の返却、当日の新聞閲覧、問合せ対応を実施しました。 *緊急事態宣言による全館休館中（4月25日から6月3日まで）は、予約資料の受け渡し、資料の返却、問合せ対応を実施しました。 - 令和4年3月8日から同月31日まで 芝久保図書館にて、中央図書館のみで購読している新聞の閲覧を実施しました。 - 令和4年3月19日から同月30日まで 中央図書館入口にて、予約資料の受け渡し、資料の返却、問合せ対応を実施しました。 - 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで 中央図書館所蔵の一般書、児童書、地域・行政資料、視聴覚資料、雑誌のうち、複本の有無や利用頻度などを判断して、地域館に一部の資料をこの間移管しました。中央分の新刊についても地域館で受け入れました。 - 中央臨時窓口での貸出しは、年間143,704（件）、開設日1日平均 548（件）となりました。 *令和2年度中央図書館は、年間460,060（件）、開館日1日平均1,769（件） - 全館合計の貸出しは、年間1,676,648（件）となりました。 *令和2年度合計は、年間1,714,416（件）	
基本方針6の総合自己評価・今後の課題改善点	
西東京市図書館の中心館であり利用も最も多い中央図書館が一年間休館することは、市民にとって大きな影響があることを想定して、財政コストをできる限り抑えながら図書館全体で工夫してサービスを続けることができました。 中央図書館休館中はカウンター対応の窓口のみで閲覧できる資料がなかったことから、図書館を利用されなくなった利用者もいました。 しかし、多くの方が市内の地域館利用に切り替えたことにより、一定の資料要求に応えることができたとともに地域館の利用拡大にも繋がられました。 また、中央図書館の休館情報は、広報西東京、ホームページ（市・図書館）、西東京	B

の教育、図書館だより、図書館内でのポスター掲示及びちらし配布など様々な手法により行いましたが、それでも伝わらず、問い合わせがくるケースがあり、周知の難しさを感じました。 令和４年度は、リニューアルした中央図書館を休館前以上に活用してもらうために、設備や資料を一層整え、PRしていくことが重要な課題です。	
図書館協議会委員による二次評価	
中央館の耐震補強等改修工事の休館中の対応として、臨時窓口の開設、市内地域図書館への機能分散など細かい点まで配慮されたことを評価します。広報については、今回の経験を活かし、今後の広報計画に繋げていくことを期待します。	A